

# カリキュラムマップ（看護学科）

## 看護学科のカリキュラムポリシー（教育課程編成・実施の方針）

「豊かな人間性を培い、高い倫理観のもと生命への尊厳を基盤に対象者とその家族を中心にした看護を実践するための基礎的能力を修得する」という看護学科の教育目標を達成するために、次の7つの教育の柱をおく。

- 1) 人間を尊重する態度と創造的ケアの実現
- 2) ライフサイクルを踏まえた人間理解
- 3) 科学的根拠に基づいた看護実践
- 4) 人間関係を培うコミュニケーション
- 5) 国際・情報化社会に対応できるグローバルな観点
- 6) 多職種連携における専門職の理解
- 7) 倫理的態度を基にした自律的学習

## 看護学科のディプロマポリシー（学位授与の方針）

1. 知識・理解
  - (1) 対象者とその家族・コミュニティを中心にした看護のために、ライフサイクルおよび社会環境を踏まえた対象理解ができる。
  - (2) 科学的根拠に基づいた看護を実践するための、専門知識が理解できる。
2. 汎用的技能
  - (1) 社会文化的背景の理解のもとにコミュニケーション能力を活かして、対象者と共に建設的で対等な関係性を築くことができる。
  - (2) 多職種との連携においてチームの一員としての役割を理解し、メンバーシップ、リーダーシップが発揮できる。
3. 態度・志向性
  - (1) 国際・情報化社会に柔軟に対応できる基礎的な能力を身につけ、グローバルな観点から看護を志向することができる。
4. 統合的な学習経験と創造的思考力
  - (1) 人間を尊重する態度のもと、個人および集団に対する健康と生活の質の向上のために、その人々にあった創造的なケアの実現を目指すことができる。
  - (2) 看護専門職としての責任と倫理的態度を身につけ、生涯学習者として自律・自立した学習を推進するための能力向上に努めることができる。

看護学科カリキュラム								カリキュラムポリシー・ディプロマポリシーを達成するために ◎ 特に重要な項目 ○ 重要な項目 △ 履修することが望ましい項目			
授業科目名	授業科目のねらい	授業科目の到達目標	単位数 (○印は必修)	配当年次	開講区分	レベル (低1～4高)	アクティブラーニング※の実施について (具体的にお書きください)	知識・理解 (基礎力)	汎用的技能 (思考力・実践力)	態度・志向性 (思考力・実践力)	統合的な学習経験と創造的思考力(実践力)
解剖学	近代医学の出発点の一つは、杉田玄白の例を持ち出すまでもなく、解剖学にある。医療者として、その重要性を理解するため最低限の知識を身につけることを主眼に置き、看護師としての基本的資質を形成・獲得し、科学的根拠に基づいた看護実践が行えるようになる。Moodleをメインに使用する。Microsoft Teamsも使用する。	医療者として必要な医学の基本を身につけ、臨床の場で応用できることを目標とする。ライフサイクルを踏まえた人間理解のもと、科学的根拠に基づいて看護が実践できることを目指す。授業の最初に毎回、小テストを受験し、基本的な知識を確認する。学期末には確認試験を受験する。教科書には解剖生理学を使用し、特に人体の構造に力点を置いて学修する。	2	○	1	通年	2	-	◎	○	○
生理学	我々の体を構成している体液・血液、循環器系、呼吸器系、消化器系、泌尿器系、内分泌・生殖器系、筋肉、神経系、感覚器系について、それぞれの正常な生理機能を学習する。各器官の機能と役割を、それらを構成する「細胞」や「分子」のはたらきに基づいて理解し、各器官系が統合されて成立している「個体」の正常な働きの仕組みを考える。	看護を実践する基礎となる正常なからだの機能を知り、その仕組みを理解する。さまざまな組織がお互いに関連しあって身体全体としての機能を果たしている様子について、理解を深める。	2	○	1	通年	2	-	◎	○	○
微生物学	感染症の原因となる病原微生物の基礎的知識や滅菌・消毒法等の基本を習得し、病原体に対する生体の防御機構や免疫反応を理解する。また、病原細菌、ウイルス、真菌、原虫等による臨床的に重要な感染症の症状や検査法、治療法、予防法に関する基本事項を知る。	①微生物について基礎的知識を理解できる。 ②滅菌・消毒の手段およびそれらの適切な使用方法を理解できる。 ③免疫学の基礎を理解できる。 ④臨床的に重要な細菌・ウイルス・真菌・原虫等による感染症の症状、検査、治療、予防に関する基本事項を理解できる。	1	○	1	後期	2	-	◎	○	○
病理学	疾患の基礎としての病理学的思考の習得である。 オンデマンドによる講義:Moodleで配信する。講義ビデオを視聴した後、課題に取り組むこと。	病理学とは、病気の原因、発生機序の解明や病気の診断を確定するのを目的とする学問であり、病気の発生原因、経過、転帰などについて解明していく学問である。臓器・組織・細胞の変化としての疾病の成り立ちや症状について、看護職としての必要最低限の基礎知識を得るとともに、病理学的な考え方を身につける。	1	○	2	前期	2	-	◎	○	○
薬理学	薬や機能性食品、生理活性物質がどのように病原体や生体分子と相互作用して、疾患を治療したり健康を増進していくか理解する。	1. 正常時および種々(精神疾患、アレルギー疾患など)の疾患発症時の体の仕組みについて説明できる 2. 薬(および機能性食品、生理活性物質)が相互作用する分子について、また、薬の作用によって起こる分子や臓器、体全体の働きの変化を説明できる 3. 薬の名称を上げ、その薬の薬理(効果を示す分子の理由)、副作用、適応疾患、その他の特徴を説明できる。	1	○	2	前期	2	-	◎	○	○
栄養学総論	健康で心豊かな生活をするためには、食生活が健康にどのように関わっているかを理解し、臨床現場などの実践に役立つ知識を習得することが必要である。 この講義では、健康と栄養との関わりをはじめ、栄養素の種類・はたらきと食品、消化と吸収、エネルギー代謝、さらにライフサイクルと栄養摂取、栄養アセスメントについて解説する。	人間の成長や健康へ食生活および栄養がどのように関わっているかを理解することを目標とする。具体的には、栄養素の種類やはたらきについて理解できる、食生活および栄養と健康の維持・増進との関わりを理解できる、疾病と食生活との関係が理解できる。	1	○	1	前期	1	-	◎	○	○
疾病治療論Ⅰ	看護学の基盤となる医学的知識について、解剖学、生理学を基盤として身体の正常な機能を理解したうえで、系統的別の代表的な疾患について、特徴的な形態機能学的変化と全身および局所的な症状、必要な検査方法と所見について理解する。そして代表的な疾患の治療法として、内科的治療においては薬物療法、外科的治療においては手術療法を中心に学ぶ。疾患とその治療による対象者への影響を身体的な側面のみならず、心理的、社会的な視点につなげ、看護の対象者として捉え、今後の成人看護学方法論の学習に繋げることをねらいとする。	1. 健康障害をもつ対象者を的確に理解するために必要な、病態、検査、診断法、治療法について、説明することができる。 2. 最新の医療事情について理解し、医療の高度化に対応するために、またチーム医療を支える看護専門職者として必要な姿勢について考えることができる。 3. 代表的な疾患とその治療の学びを生活者の視点からとらえることができる。	2	○	2	前期	2	-	◎	◎	○

授業科目名	授業科目のねらい	授業科目の到達目標	単位数 (○印は 必修)	配当 年次	開講 区分	レベル (低1～4高)	アクティブラーニング※の 実施について (具体的にお書きください)	知識・理解 (基礎力)	汎用的技能 (思考力・実践力)	態度・志向性 (思考力・実践力)	統合的な学習経験と創 造的思考力(実践力)
疾病治療論Ⅱ	精神医学が対象とする疾患は多岐にわたり、その治療的視座は個々の対象の生物学的要因、生きてきた環境や文化などを含んだ生活史、そして今後の治療のために利用できるリソースにまで、広く包括的な範囲に及ばなければならない。そのエッセンスを理解し、臨床現場で利用可能な実際の知識と伝達可能な用語を身につける。 老年期に特有な徴候や疾病・障害等の病態・検査・診断と治療に関する基礎を学び、老年期医療の現状を理解する。	主要な精神疾患について病態・診断・治療の基礎的な知識を得る。 精神障害リハビリテーションと多職種連携支援について理解する。 災害精神医療とリエゾン精神医学の概要について理解する。 老年期に特有な徴候や疾病・障害等の病態・検査・診断と治療に関する基礎を学び、老年期医療の現状を理解する。	2	○	2	後期	2	-	◎	○	○
疾病治療論Ⅲ	小児科：小児は成人の小さなコピーではない、成長・発達に伴い身体・精神状況は刻々と変化していく。先天性疾患・感染症など小児特有の疾患も多い一方で、生活習慣病などの慢性疾患も増加しつつある。発達・発育の生理的特徴を常に考えながら、小児の疾患・病態を学んでいく。 婦人科：周産期：妊娠・分娩・産褥期の母子に起こりえる異常に関して、代表的疾患を取り上げ解説する。常に正常な生理と対比しながら講義し、異常の早期発見ならびに適切なケアや予防教育が提供できることにつなげる。さらに婦人科学系疾患の成因、病態、症候、診断、治療法、合併症、後遺症、予後に関する知識を講じる。	小児科：小児期に起こりやすい疾患の成因・病態・症候・診断・検査・治療やケアを理解する。また、子どもの健康を保持・増進するために必要な知識を理解し、異常の早期発見・発達段階に応じたケア・家族を含めた支援と教育が提供できることを目標とする。 婦人科：周産期：女性生殖器に起こる内分泌ならびに腫瘍性疾患の成因、病態・症候・診断・治療(手術法、術式)・術後合併症・後遺症の管理やケアを理解する。一方、妊娠・分娩・産褥期の母子に起こりえる異常に関して、早期発見ならびに適切なケアや予防教育が提供できることを目標とする。	2	○	2	後期	2	-	◎	○	○
公衆衛生学	健康増進と疾病予防を主たる目的とする公衆衛生学に対する理解のため、疫学や予防医学、また広範な健康増進や保健制度について学ぶ。本講義を通して、我が国における健康増進と疾病予防の考え方がどのように発展してきたのかについて理解を深める。	1.我が国における健康増進や保健制度に関する知識、考え方を習得する。 2.疾病予防に対する取り組みについて、その歴史的な沿革と現在の制度を理解する。	2	○	1	前期	1	事例を基にしたグループワークを15回目の授業で実施	◎	○	○
医療と社会福祉学	医療の場や地域において、療養生活上困難を抱える人々への支援、他職種や地域関係機関との連携に必要な社会福祉の視点や社会福祉の具体的な制度について理解をすることを目的とする。	1. 社会福祉・社会保障の理念を理解し、医療との関連を説明することができる。 2. 課題となる社会的問題を挙げることができ、その背景や対応する制度について調べることができる。 3. 社会福祉・社会保障制度の目的、対象、実施体制、具体的サービスを説明することができる。 4. 医療におけるソーシャルワーカーの役割や業務内容について理解する。 5. 医療における多職種連携の必要性について理解できる。	2	○	1	後期	1	-	◎	○	○
保健統計学	統計学は実験や観察によって得られた限られたデータから、その情報の背後にある世界のあり方を推測する理論であり、自然科学・社会科学を問わず現代の科学の基礎である。この講義では実データや実課題なども用いながらデータの読み方や表し方、扱い方を習得し、統計学の基本的な概念と考え方、計算方法を学ぶ。	統計学の基本的な考え方を理解することで、基本的な推定や検定の計算ができるようになる。	1	○	1	後期	1	-	◎	○	○
疫学	人々の健康を守り、さらには疾病の予防から治癒に至る人の健康全般にわたってケアをしようとするとき、個々の人々だけを対象とするのではなく、集団的な見方が必要である。このような集団レベルの疾病予防、健康増進のために有効な方法論の一つが疫学である。本授業では、各種の健康事象に対して、その背後に存在する要因との関係を明らかにするために疫学の理論と方法を学び、保健師・看護師の活躍する地域や臨床の実践現場、研究場面等で根拠に基づいた判断ができるようになることを目的とする。	①疫学概念と基本用語を理解し説明できる。 ②疾病の原因、疫学的な因果関係の考え方について説明できる。 ③疾病頻度とリスク、曝露効果の指標について説明できる。 ④疫学調査法について説明できる。 ⑤疫学研究の質を評価する指標について説明できる。 ⑥保健・看護職活動における疫学的視点の重要性について説明できる。	1	○	2	後期	2	授業ポートフォリオによる自己学習管理、クリック(双方向対話型教育支援システム)の活用、グループワークとプレゼンテーション	◎	○	○
保健情報学	保健医療福祉に必要な情報収集、情報分析、情報活用方法についての学習を通して、看護職として必要な情報活用力を養う。	①人口統計(人口動態・動態、その他)、保健統計調査(基幹統計、その他)、情報倫理、情報処理について説明できる。 ②学んだ知識を活用し統計データを分析することで、保健医療福祉を取り巻く様々な事象の過去・現在・未来の姿を分析できる。	1	○	2	後期	3	統計情報の収集・プレゼンテーション	◎	○	◎
臨床心理	医療における心理学の概念と、心理アセスメントの要点、メンタルヘルス、医療現場で行われる心理療法について解説する。医療現場における、心理学的なアセスメントの重要性について理解すること。また、医療従事者としての対人援助技術について理解することを目標とする。	医療現場における、心理学的なアセスメントの重要性について理解すること。また、医療従事者としての対人援助技術について理解すること。	1		1	後期	1	-	○	○	△
国際保健	世界の様々な国・地域に暮らす人々の健康状態について、国際機関等のデータベースを活用し国際情勢と関連付けて分析を行い、健康水準の格差やその格差が生じる要因について理解する。また、健康の維持・増進のために、政府及び国際機関のみならず、NGO・NPOが行っている具体的な取組について知る。国際的視点から地球市民としての自覚に基づき、自国と諸外国の健康問題について理解する能力を養う。	1. 世界の様々な国・地域の健康状態について、国際機関等のデータベースを活用しながら分析を行い、健康水準の格差やその格差が生じる要因を理解する。2. 健康水準の改善のための方策について、国際機関、NGO・NPOの具体的な取組を知る。3. 国際的視点から地球市民としての自覚に基づき、自国と諸外国の健康問題について理解する能力を養う。4. 世界の医療・保健問題を理解する多様な視点を持ち、専門職として多様な人々の健康問題の解決に向け貢献する方法を考える事が出来る。	1		2	後期	2	グループディスカッション	◎	○	○
基礎ゼミ	看護学科で修得すべきことは何かを理解し、なぜその学問を学ぶのかという理解に基づいた自主的な学びの姿勢、新たな発見を導き出せる力を身につけることを目的とする。学問探求の場である大学では自ら学び、考え、調べ、論ずることが求められる。主体性・論理性・実行力をもつとともに、本学学生としての誇りと自覚をもち、読む・書く・聴く・述べるという具体的なワークをゼミ形式も交えて行いながらアカデミックスキルズを身に付ける。また、それを通して、今後4年間の大学生活において、社会人基礎力・コミュニケーション能力の向上させることを意識しながら専門的知識と教養を修得できるよう、自身の過ごし方を考える。	大学とはなにか、大学生とはどうあるのがのぞましいかを理解し、本学学生としての誇りと自覚を身に付ける。情報リテラシー・情報倫理について正しく理解した上で、探求・追求・研究する意欲を育む。グループ活動や課題を通して、読む・書く・聴く・述べるという具体的なワークを行いながら、アカデミックスキルズおよびコミュニケーション能力・社会人基礎力を培い、教養を身に付ける素地と基本的な社会的ルールを身に付ける。大学生として自律した行動をとることができるようになる。	1	○	1	前期	1	グループディスカッション・グループワーク・プレゼンテーション	◎	◎	○
多文化理解のための看護英語Ⅰ	This course is the first subject of a series of 'English for Nursing and Multicultural Understanding'. It specifically prepares nursing students who wish to develop general communication skills with non-Japanese patients and medical professionals. Students will enjoy a variety of learning activities to listen/talk in English not only by the textbook but also by using the original online learning program.	By the end of the courses; the students will be able to: 1) increase the vocabulary used in general conversations; 2) know how to give clear self-introduction as a nursing student; 3) gain clear and simple expressions to explain about nursing education and health care system in Japan. In addition to these outcomes; students will be able to develop culturally appropriate communication skills.	1		1	前期	1	ロールプレイ等	◎	○	○

授業科目名	授業科目のねらい	授業科目の到達目標	単位数 (○印は 必修)	配当 年次	開講 区分	レベル (低1～4高)	アクティブラーニング※の 実施について (具体的にお書きください)	知識・理解 (基礎力)	汎用的技能 (思考力・実践力)	態度・志向性 (思考力・実践力)	統合的な学習経験と創 造的思考力(実践力)
多文化理解のための看護英語Ⅱ	This course is designed to develop basic communication skills for first-year nursing students in the course of "English for Nursing and Multicultural Understanding." Students will learn basic vocabulary; expressions that help non-Japanese patients care. Students will also learn how to communicate with non-Japanese health care professionals. In this subject; students are expected to learn about cultural differences in healthcare and patients' beliefs and values.	By the end of the courses; the students will be able to: 1) increase the vocabulary used for patients with common diseases at primary care settings; 2) know clear and simple expressions to help non-Japanese patients who require medical tests or medications; 3) gain how to teach/instruct patients by considering their cultural backgrounds; and 4) communicate with health care professionals as a nursing student at a clinical practicum overseas. In addition to these outcomes; students will be able to develop culturally appropriate communication skills with non-Japanese patients as well as health care professionals.	1	1	後期	2	ロールプレイ等	◎	○	◎	○
多文化理解のための看護英語Ⅲ	This course is designed for the second year nursing students to develop effective communication skills frequently seen in clinical situations. Students will learn medical terms and culturally appropriate communications with non-Japanese patients. Through this course along with the original online program, students are expected to be aware of the quality of care by recognizing cultural beliefs and its context.	By the end of the courses, the students will be able to: 1) increase the vocabulary to describe common disease, treatment, and self-care, 2) know cultural sensitive communication skills with non-Japanese patients and their families, and 3) gain supportive and compassionate expressions to help non-Japanese patients. In addition to these outcomes, students will be able to think critically about non-Japanese patients' culture and how to integrate them with health care.	1	2	前期	3	ロールプレイ等	◎	◎	◎	◎
多文化理解のための看護英語Ⅳ	This course is designed for the third year nursing students who have already completed clinical practicum courses. In each lesson, students will learn vocabulary to understand medical chart/medical questionnaire, to communicate with non-Japanese healthcare professionals, and to explain disease, treatment, and self-care for non-Japanese patients and their family. Students will also learn advanced communication skills with patients and their families. Students are expected to use online program for preparing and reviewing before/after each lesson.	By the end of the courses, the students will be able to: 1) increase vocabulary to describe common chronic diseases, symptoms, and treatment, 2) improve reading and analytical skills of medical chart/health questionnaire, 3) know useful expressions to help patients with complex health care needs, 4) understand effective communication skills with non-Japanese health care professional to improve quality of care for non-Japanese patients. In addition to these outcomes, students will be able to think critically about the quality of team care for non-Japanese patients with families.	1	3	前期	4	ロールプレイ等	◎	○	◎	◎
リハビリテーション概論	リハビリテーション医学の概要について理解できるようになることを目的とする。	医療従事者がどのようにリハビリテーションに関与しているのかについて学び、医療に係わる職業人になるという自覚を持てるようになる事を目標とする。	1	○	1	前期	-	◎	○	◎	○
医療コミュニケーション論	講義は、自己表現・リスニング・患者とのコミュニケーションの3つの演習により構成している。それぞれの演習を通して医療者と対象者との援助関係を構築するために必要な対人援助技術の基礎力を養う。さらに、演習の体験から自己のコミュニケーションの傾向と課題に気づくことができる。Ⅲ	1. 対象者との援助関係を構築するために、必要なコミュニケーション技術がわかる2. コミュニケーション技術の基礎を演習で実施し、評価できる3. 演習を通して気づいた自己のコミュニケーションの傾向と課題を記述できる	1	○	1	前期	1	◎	◎	○	△
理学・作業療法論	理学療法、作業療法について概観し、疾患や時期に応じた役割について学ぶ。看護師と共にリハビリテーション専門職として働く理学療法士、作業療法士の役割を理解したうえで、看護との連携について理解を深める。	1. 理学療法の内容、役割、各疾患に応じた関わりについての知識を得る。 2. 作業療法の内容、役割、各疾患に応じた関わりについての知識を得る。 3. 看護師と理学療法士、作業療法士の連携について考え、対象者にとってより良いリハビリテーションの提供について考えることができる。	1	2	後期	1	-	○	○	○	△
医療リスクマネジメント	医療における安全管理について、リスクマネジメントを基本として医療事故とその対策について学ぶ。対象者を取り巻く医療施設における医療安全施策と組織的安全管理体制への取り組みについて理解した上で、医療事故発生予防から発生後の対策と医療事故による対象者への影響を学修する。また多職種連携として、それぞれの専門的な視点から医療現場で起こりやすい事例をもとに医療リスクマネジメントのプロセスを分析し、チーム医療に繋げることを目指す。対象者への倫理的配慮の視点や医療職者としてのあるべき姿をイメージし、今後の役割に活用できる基礎的能力を培う。	1. 医療職を目指すものとして、医療安全を学ぶことの大切さを説明できる。 2. 医療事故の定義・分類について説明できる。 3. わが国の医療安全施策と組織的安全管理体制への取り組みについて述べられる。 4. 医療事故発生のメカニズムと事故分析・事故防止対策について述べられる。 5. 医療事故によって対象、および当事者への心理・社会的影響と危機介入の原則について述べられる。 6. 業務上起こりうる感染や転倒のリスクを理解し、その予防策について述べられる。 7. 多職種連携の観点から、医療(実習)現場で起こりうる事例をもとに医療リスクマネジメントのプロセスを分析し、記述できる。	1	○	3	前期	3	◎	◎	◎	○
医療倫理	生命倫理学が取り扱う諸概念(人格、尊厳死、インフォームドコンセントなど)について、様々な具体例を通して学習する。さらに、医療における倫理的問題について、事例検討を行うことで、生命、生、死についての理解を深める。提示された授業課題に取り組むことにより得た知識をもとに、対象者の尊厳や権利を守り、よりよい選択を支援するために、チームとして協働することの重要性を学ぶ。	1.現代医療における倫理的問題を知る。 2.四原則など生命倫理/医療倫理でなされている議論を理解する。 3.個々の事例において、単に原則を適用するだけではなく、事例に則して決定、行為することができる倫理的判断力を修得する。 4.倫理に関する幅広い教養を身につけ、人権や生命の尊厳について深く理解し行動ができるようになる。 5.対象者の尊厳や権利を守り、よりよい選択を支援するために、チームとして協働することの重要性を理解する。	1	3	前期	3	グループワーク(事例検討)	◎	○	◎	○
チームケア論	高度医療施設や在宅医療、地域医療による複数科診療体制または社会福祉サービスを必要とする事例について、専門領域の異なる学生グループで目標を共有し、ディスカッションを行い問題解決の過程を体験的に学習することを通じて、自己・他者の専門性を尊重し、相互理解を深め、チームで協働することの意義を理解する。	1. 患者・家族・利用者及び多職種と有効なコミュニケーションをとることができる。 2. 患者・家族・利用者を中心とした効果的なチームケアが実践できる。 3. 医療施設、保健・福祉施設、在宅で行われているチーム医療を理解できる。 4. 医療施設、保健・福祉施設、在宅におけるチームアプローチにより効果的な治療やケアを導き出すことができる。	1	○	4	後期	4	◎	◎	○	◎
看護学原論	看護学原論では、人間科学、看護科学を基盤とした看護実践を中核概念に据え、看護の基本原理解や看護の学問的な追究方法、また看護実践の基礎となる知識や技術など、看護学の骨格を体系的に学ぶ。	1.看護学を支える哲学的価値および学問的特徴について理解する。 2.看護は、患者とその家族、および地域に住まう人々を中心に実践されることを理解する。 3.看護実践の基礎となる専門的知識や技術の位置づけについて理解する。 4.以上から、看護学への学問的関心を抱くことができる。	2	○	1	前期	2～3	◎	◎	◎	◎

授業科目名	授業科目のねらい	授業科目の到達目標	単位数 (○印は 必修)	配当 年次	開講 区分	レベル (低1～4高)	アクティブラーニング※の 実施について (具体的にお書きください)	知識・理解 (基礎力)	汎用的技能 (思考力・実践力)	態度・志向性 (思考力・実践力)	統合的な学習経験と創 造的思考力(実践力)	
基盤実践看護学演習Ⅰ	基盤実践看護学演習Ⅰ～Ⅲでは、科学的知識をふまえるとともに、看護師と患者との相互の人間関係を基盤に為される看護師の具体的な行為としての看護技術を実践的に学修する。基盤実践看護学演習Ⅰ～Ⅲでの学修をとおして、看護技術の基軸である生活者としての対象者の理解、および、安全・安楽・自立・その人らしさの考慮をふまえて看護技術を実施できる能力を段階的に修得することをねらいとする。 基盤実践看護学演習Ⅰ(レベルⅠ)では、<全ての看護技術の基盤となる知識・技術について、科学的知識を踏まえるとともに身に付ける>ことを目指し、「看護技術とは」「看護におけるモード」「感染予防の看護技術」「病床環境を整える看護技術」「活動と休息を助ける看護技術」「バイタルサイン(生命徴候)の観察」についての根拠と具体的方法を学修する。 学修過程においては、学生が主体的に考えながら自己主導的に学ぶための基本的な力を身に付けていくことを目指す。	1.看護技術のコアである「安全」「安楽」「自立」「その人らしさ」について理解する 2.他者を援助するにあたり、全ての看護技術に共通する、他者を守るための感染予防および物理学を用いた看護師の身体の使い方に関する知識、技術を修得する 3.患者と看護師の相互の人間関係をもとに、対象者を生活者として理解することの必要性が分かる 4.対象者にとって安全で安心をもちやす病床環境を整え休息を助け、活動の意欲を助けるために用いる看護技術の基本的知識を理解し、対象者の安全・安楽・自立・その人らしさを考慮した援助を実践する能力を修得する 5.対象者の身体内部の状態を把握するための看護における観察について具体的に学び、対象者の生命活動を捉えるためのバイタルサイン(生命徴候)の観察に関する基本的知識を、原理・原則に則って理解し、根拠をもって正確なバイタルサインの観察を行う 6.主体的に考え自己決定的に学習するために必要な学習方法を知らるとともに、実践する	1	○	1	前期	1	グループ演習	◎	◎	◎	◎
基盤実践看護学演習Ⅱ	基盤実践看護学演習Ⅱでは、科学的知識をふまえるとともに、看護師と患者との相互の人間関係を基盤に為される看護師の具体的な行為としての看護技術を実践的に学修する。基盤実践看護学演習Ⅰ～Ⅲでの学修をとおして、看護技術の基軸である生活者としての対象者の理解、および、安全・安楽・自立・その人らしさの考慮をふまえて看護技術を実施できる能力を段階的に修得することをねらいとする。 基盤実践看護学演習Ⅱでは、「生命活動を支える看護技術」としての「食行動を助ける看護技術」「排泄行動を助ける看護技術」「清潔行動を助ける看護技術」「呼吸と循環を整える看護技術」についての根拠と具体的方法を学修する。 学修過程においては、学生が主体的に考えながら自己主導的に学ぶことを通して、自律的な学習者として成長することを目指す。	1.看護技術を実践することを通して、看護技術のコアである「安全」「安楽」「自立」「その人らしさ」についての理解を深める。 2.患者と看護師との相互の人間関係をもとに、対象者を生活者として理解することの必要性を理解し、実践する。 3.生命活動を支えるための食行動を助ける看護技術、排泄行動を助ける看護技術、清潔行動を助ける看護技術、呼吸と循環を整える看護技術に関する基本的知識を理解し、対象者の安全、安楽、自立、その人らしさを考慮した援助を実践する能力を修得する。 4.これまで修得した知識・技術を自己主導的な形で復習しながら、新しい単元の学びを深める 5.カンファレンスやリフレクションなどのグループ活動を通して学び合い、自己の課題を見出すことができる	1	○	1	後期	1	グループ演習	◎	◎	◎	◎
基盤実践看護学演習Ⅲ	基盤実践看護学演習Ⅲでは、科学的知識をふまえるとともに、看護師と患者との相互の人間関係を基盤に為される看護師の具体的な行為としての看護技術を実践的に学修する。基盤実践看護学演習Ⅰ～Ⅲでの学修をとおして、看護技術の基軸である生活者としての対象者の理解、および、安全・安楽・自立・その人らしさの考慮をふまえて看護技術を実施できる能力を段階的に修得することをねらいとする。 基盤実践看護学演習Ⅲでは、「健康を取り戻すことを支える看護技術」としての「感染予防の看護技術」「検査・検体採取に関する看護技術」「与薬の看護技術」「治療を受ける患者の日常生活の援助技術」についての根拠と具体的方法を学修する。 学修過程においては、学生が主体的に考えながら自己主導的に学ぶことを通して、自律的な学習者としてさらに成長することを目指す。	1.看護技術のコアである「安全」「安楽」「自立」「その人らしさ」についての理解に基づき、看護技術を実践することができる 2.患者と看護師との相互の人間関係をもとに、対象者を生活者として理解することの必要性を理解し、実践することができる 3.対象者の健康を取り戻すことを支えるための感染予防、検査・検体の採取、与薬の看護技術の基本的知識を科学的根拠を踏まえて理解し、対象者の安全を考慮しながら、シミュレーターを用いて正確に行うことができる 4.治療を受ける患者のライフサイクルを踏まえるとともに、安全・安楽・自立・その人らしさを考慮した日常生活の援助技術を実践する能力を修得する 5.これまで修得した知識・技術を自己主導的な形で復習しながら、新しい単元の学びを深める 6.カンファレンスやリフレクションなどのグループ活動を通して学び合い、自己の課題を見出すことができる	1	○	2	前期	2	グループ演習	◎	◎	◎	◎
看護過程Ⅰ	看護過程Ⅰ、Ⅱを通して、唯一無二の存在の生活者である対象者を理解することが、対象者であるその人と看護師の人間関係に基づくことを理解する。そして、対象者のおかれている状況を把握し、「その人らしさ」や「個別性」を踏まえた対象者にあった看護援助を考え追求し、科学的根拠に基づき意図的に実践していく過程を学びその力を養う。 看護過程Ⅰでは、看護実践における看護過程の必要性および重要性を理解し、対象者を理解するための基本的なプロセスである、生じている問題を系統的に解決するための一連の流れを学習し、主に身体面に関するアセスメント能力の修得を目指す。 看護過程は、看護師と対象者の人間関係を基盤としており、双方の価値観の影響を受ける。そして、対象者に生じている問題に気づくためには、「看護師の気がかり」が重要であり、この「看護師の気がかり」は、看護師自身が持つ価値観、さらに看護についての考え(看護観)の影響を受ける。これらのことを理解しながら、今まで学んできた看護観を深め、学んでいく。また、その過程においては、学生が主体的に考え、メンバーと協働しながらワークを進めることを通して、自己主導的に学修する力を高めることを目指す。 本科目での学修内容は、2年次後期の看護過程Ⅱの基盤となる。	1.看護実践における看護過程の必要性および重要性について理解し、説明することができる 2.対象者の理解を深めるための看護過程の基本的なプロセスについて理解できる 3.看護的ながかりをもとにして、ゴードンの機能的健康パターンを用いて身体面のアセスメントができる 4.看護記録の法的位置づけを理解し、適切に看護記録を記載することの必要性について理解できる 5.主体的に思考し、メンバーと協働しながらワークを進めることを通して、自己主導的に学修する力を高めることができる	1	○	1	後期	1	グループ演習	◎	◎	◎	○
看護過程Ⅱ	看護過程Ⅰ、Ⅱでは、看護実践の中核をなし、科学的・創造的に看護を実践するための系統的な思考方法としての「看護過程」の基本的な考え方について段階的に学ぶ。 看護過程Ⅱでは、看護過程Ⅰでの学修を基盤に、看護過程の全ステップを辿ることを通して、全体論的な視点を踏まえて対象者を理解するとともに、対象者の健康上の問題を見極め、最適な個別の看護を見出すための思考方法を理解する。 ゴードンの機能的健康パターンに関連する中範囲理論の知識を踏まえ、科学的・論理的に看護過程を展開する力を身に付ける。以上をとおして、看護過程が問題解決のプロセスであるとともに人間関係プロセスであることを理解する。本科目で培う思考力は3年次で学ぶ各専門科目の方法論の基盤となる。	1.看護過程が人間関係を基盤とした系統的な問題解決プロセスであることについて説明することができる。 2.ゴードンの機能的健康パターンを用いて、系統的な思考のもとに、科学的根拠と対象者の個性を踏まえたアセスメントができる。 3.対象者を個別的、全体的な存在として捉え、かつ、優先順位を考慮した看護計画を立案することができる。 4.メンバーと協働しながら学修を進めることを通して、自己主導的に学ぶ力を高めることができる。	1	○	2	後期	2	グループ演習	◎	◎	◎	◎
看護理論	どのような学問もしくは専門職の分野でも、それを理解するためには、その学問分野の基礎となる理論を理解しなければならない。 本科目では、看護理論の歴史的発展過程を理解するとともに、その成立過程をとおして看護における理論について理解する。また、看護における理論と実践の関係について熟考する機会とする。	1.看護理論の歴史的発展過程について理解する。 2.看護理論の特徴を踏まえ、看護の学問的特徴を理解する。 3.看護学における理論と実践について考えることができる。 4.上記を通して、看護について探求する。	1	○	2	前期	2	-	◎	◎	◎	○

授業科目名	授業科目のねらい	授業科目の到達目標	単位数 (○印は 必修)	配当 年次	開講 区分	レベル (低1～4高)	アクティブラーニング※の 実施について (具体的にお書きください)	知識・理解 (基礎力)	汎用的技能 (思考力・実践力)	態度・志向性 (思考力・実践力)	統合的な学習経験と創 造的思考力(実践力)	
医療人のための倫理学概説	本科目では、医療人に求められる倫理とその必要性について理解することを目的とする。具体的には、倫理理論、倫理に関する主要概念についての知識をふまえて、医療人として対象者の生命、尊厳を尊重し、権利を守る必要性について考える。さらに、対象者との信頼関係を築くために必要な医療人としての倫理的態度について学ぶ。以上を踏まえて医療人にとって対象者を中心に考え、行動することの必要性を理解し、看護学実習に臨むための準備を主体的に整えていくことを期待する。本科目は基本的に対面で実施する。	1.医療人として倫理的に考え、行動するために必要な倫理理論、倫理に関する主要概念について理解する。 2.医療の場において対象者の生命、尊厳を尊重し、権利を擁護することの必要性について考える。 3.対象者との信頼関係を築くために必要な医療人としての倫理的態度について理解し、実践する。 4.以上を踏まえて医療人にとって対象者を中心に考え、行動することの必要性を理解し、看護学実習に臨むための準備を主体的に整えることができる。	1	○	1	前期	1	グループ演習	◎	○	◎	○
基盤実践看護学実習Ⅰ	看護は、対象者である人々が、住み慣れた地域で健康のレベルを問わずその人らしく生活し続けることを支える役割がある。そのため看護者は、対象者を生活者として捉え、人々がコミュニティの中で健康に暮らすこと、療養しながらもその人らしさを重視した生活が営めるような援助を行う必要がある。本実習は、個別具体的な存在である対象者を、ライフサイクルを踏まえるとともに、生活者の観点から理解することを主眼とする。具体的には、健康上の問題のために生活に支障がある患者を受け持ち、直接かかわることで、人が病むこと、老いることの実態を知る。また、看護師がどのように患者に関心を寄せ、何を大事にしながら看護を行っているかを知ること、看護についての考えを深める機会とする。	1. 個別具体的な存在である患者を、療養環境と併せて生活者の観点から理解する 2. 「理解・受容・尊重・承認」という態度を大切にしながら、患者とその家族とのコミュニケーションを体験する 3. 看護師が患者に関心を寄せながら看護を実践している実際を知る 4. 自らの体験を通して、看護についての考えを深め、言語化する 5. 看護を学ぶ学習者として主体的かつ協働的に学ぶことができる	1	○	1	前期	1	グループ演習・プレゼンテーション	◎	◎	◎	◎
基盤実践看護学実習Ⅱ	基盤実践看護学実習Ⅱでは、看護援助を必要とする生活者の理解や、病むこと・老いること・障害があること・生活環境が変化することの意味、また患者との関係の形成という『基盤実践看護学実習Ⅰ』の学習経験を基盤とし、指導者とともに看護実践することを通して「看護の意味」について探求することをねらいとする。生活者である患者が、健康を取り戻し、よりよく生きられるために必要な看護について思考し、実施・評価するというプロセスを実践する。その体験をもとに、ケアの意味や、専門職としての看護師の役割や責任について考える。以上を踏まえ、その基盤となる「看護を学ぶ学習者」としての態度を培うとともに、看護観を深める。	1. 「固有の生活」と「基本的ニーズを充足するための生活行動」を営む存在である「生活者」としての患者を理解し、健康を維持・増進し、よりよく生きることを支えるための看護の視点を学ぶ。 2. 看護を実践する方法である状況的アセスメントに基づき援助を実施し、評価できる。 3. 看護実践のプロセスを振り返ることで、「患者との関係」や「ケアとしての看護技術」の意味について考える。 4. 専門職としての看護師の役割や責任、倫理、態度について考える。 5. 体験した看護実践を言語化し意味づけることで、看護についての考えを深める。	2	○	2	前期	2	グループ演習・プレゼンテーション	◎	◎	◎	◎
臨床実践看護学演習	臨床実践看護学演習では、基盤実践看護学演習Ⅰ～Ⅲで学修した看護師と対象者の人間理解を基盤にした看護実践能力を基盤とし、さらに臨床において必要となる看護実践能力を学修する。日常生活援助技術、診療の補助技術の基礎的な看護技術の実践能力を活用しながら、ライフスタイルや発達、疾病や症状、回復の経過、加えて対象者が生活する様々な場面で活用できる看護技術の基礎的な実践能力を養う。また看護学方法論と連動した技術習得を目指す。培われる看護技術の実践能力は、3年次後期における臨床看護学実習で対象者のニーズに応じた援助を展開する能力の基盤となる。助産師教育課程の「助産診断・技術学」の読み替え科目となる。	1. 臨床に必要な看護技術を提供する際の対象者のアセスメントの視点倫理的配慮について説明できる 2. 対象者の状態に合わせた「呼吸を整える看護技術」「栄養状態を整える看護技術」「排泄行動を支える看護技術」「急変時の看護技術」について、正しく安全に実施できる 3. 基本的な看護技術を提供する際の対象者の安全と安楽を考えながら実施できる 4. 事例演習を通して、ライフスタイルや発達、疾病や症状、回復の経過、加えて対象者が生活する様々な場において、必要な看護技術を考えることができる	2	○	3	前期	3	グループワーク・シミュレーション教育	◎	◎	◎	◎
成人看護学概論	ライフサイクルの中で最も幅広い年代にあり、社会的役割と責任をもちながら生活する成人期の対象者、およびその家族を中心とした看護支援の基本的な考え方を学習する。成人看護学において必要な理論や概念を知り、成人期の健康問題の複雑性・多様性を理解したうえで、対象者を生活者と捉え、多面的に理解するための視点を養うことを目指す。	1. ライフサイクルにおける成人期の位置づけと成人期各期の特性(身体的・精神・心理社会的を含む)を述べることができる 2. 成人期の対象者を生活者と捉え、理解するための視点について述べる 3. 成人期の対象者とその家族を中心とした看護支援を行う上で、有用となる理論や概念を知識として得ることができる 4. 成人期にみられる健康問題の複雑性・多様性を知り、それらに対応した看護支援について考えることができる	2	○	2	前期	2	グループワーク・プレゼンテーション	◎	◎	◎	○
成人看護学方法論Ⅰ	慢性的に経過する健康障害を有し、生涯にわたり生活調整を必要とする人とその家族を対象に、健康障害が生活調整と相互に影響しながら生じることを理解した上で、その人らしい健康生活を維持・増進するための看護援助方法を学ぶ。健康障害への的確なアセスメント方法を修得し、成人期にある対象者の意思決定を支えながらセルフマネジメントを推進し、QOL向上に繋がる具体的な看護援助方法を学修する。また、成人期にある対象者の発達段階や健康レベルに応じた看護過程の展開を学修する。	1. 成人期における慢性期看護の対象とその特徴について述べる 2. 代表的な慢性疾患による健康障害をもつ人とその家族をアセスメントする視点について述べる 3. 慢性疾患をもつ人とその家族が生涯にわたり、健康障害と生活が調整できるよう、具体的なセルフマネジメントの援助方法について述べる 4. 成人期にある慢性疾患をもつ人とその家族を多面的に捉え、その人の価値観や生き方、考え方を尊重した個別的な看護援助方法について述べる 5. 成人期にある慢性疾患をもつ人とその家族に寄り添いながら、直面する課題にむかって行う意思決定を支える看護について考え、述べる	2	○	2	後期	3	グループワーク・ロールプレイ	◎	◎	◎	○
成人看護学方法論Ⅱ	周手術期(手術療法が必要と判断された時から、退院後のリハビリテーション期までを含む一連の過程)、ならびに重症集中治療が必要なクリティカルな状況に焦点をあて、成人期にある対象者およびその家族の身体的、心理的、社会的特徴を理解したうえで、予測される合併症や看護について学ぶ。とくに術前から術後における意思決定支援のあり方、身体観察や悪化への対応、苦痛や不安の緩和など、心身の健康回復過程を促進させるための看護を学ぶ。また、手術によって生じる形態機能障害および健康回復過程の根拠を理解し、対象の自然治癒力やセルフケア能力を高めるための支援のあり方を学ぶ。さらに、成人期にある対象の発達段階や健康レベルに応じた看護過程の展開を学修する。	1.急性期(周手術期、クリティカル状況)にある対象者の特徴について記述できる 2.周手術期(術前・術中・術後)における看護の特徴について記述できる 3.集中治療における看護の特徴について説明できる 4.術式による特徴的な周手術期の看護について説明できる 5.成人看護学領域における看護過程の特徴の特徴に合わせた思考に基づいて紙上事例をアセスメントし、対象者中心の看護計画を立案することができる。	2	○	2	後期	3	グループワーク・ロールプレイ	◎	◎	◎	○
ヘルスアセスメント	対象者の健康状態を身体的、心理的、社会的側面から統合してとらえるヘルスアセスメントの基礎的能力を身に付ける。問診やフィジカルイグザミネーションの基本的な技術を修得し、身体各機能を系統的にフィジカルアセスメントする能力を養う。そして、対象者の精神状態や主観、生活の様子、暮らす環境、社会とのつながり、人生のプロセスという視点で心理社会面をとらえる態度を培う。また、ヘルスアセスメントにおいて必要となる倫理的配慮を身に付けることを目指す。授業は、講義・演習を組み合わせて展開する。	1.看護におけるヘルスアセスメントの概念について説明できる 2.問診や基本的なフィジカルイグザミネーションを正確かつ安全に実施し、身体各機能を系統的にアセスメントすることができる 3.対象者の身体的・心理的・社会的側面から情報を系統的に収集し、対象者の健康状態、生活状況を正しく判断するための、ヘルスアセスメントの必要性を説明することができる 4.倫理的配慮および安全かつ安楽を踏まえたヘルスアセスメントの技術を身に付けることができる	1	○	2	前期	3	シミュレーション教育	◎	◎	◎	◎

授業科目名	授業科目のねらい	授業科目の到達目標	単位数 (○印は 必修)	配当 年次	開講 区分	レベル (低1～4高)	アクティブラーニング※の 実施について (具体的にお書きください)	知識・理解 (基礎力)	汎用的技能 (思考力・実践力)	態度・志向性 (思考力・実践力)	統合的な学習経験と創 造的思考力(実践力)
成人看護学実習Ⅰ	慢性的な健康障害を有し、生活の再構築または継続的な生活調整を必要とする患者および家族に対し、対象となる人の多様性を理解した上で、健康レベルに合わせた看護援助が実践できる能力を養う。特に、慢性疾患のコントロールに不可欠であるセルフマネジメント能力の向上ならびに社会生活適応に向けた患者教育のプロセスについて、受け持ち患者の看護を通して学習する。これらを通して、慢性期看護において必要な倫理的態度と自己の看護観を養う。	1) 慢性的な健康障害を有する患者とその家族の個別的な健康問題とその特徴を多面的に理解し、説明できる。 2) 慢性的な健康障害を有する患者とその家族に対して必要なセルフマネジメント支援や患者教育、そして意思決定を支えながらQOLを高めるための支援について、看護過程を展開しながら実践することができる。 3) 慢性的な健康障害を有する患者とその家族に対して、看護者として、その人らしい生活を支え、寄り添った態度で関わるることができる。 4) 看護専門職者としてチームの連携・協働を理解し、チームメンバーとしての自己の役割、責任を自覚した行動をとることができる。 5) 医療場における倫理的課題を理解し、学習者として責任ある行動をとることができる。 6) 対象者とその家族への看護実践を通して、今後の自己の課題を明らかにし、慢性期看護における患者・家族中心の看護のあり方について自己の看護観を述べるることができる。	3	○	3	後期	3	グループディスカッション、 グループワーク	◎	◎	◎
成人看護学実習Ⅱ	手術療法を受ける対象者およびその家族に対して、術前・術中・術後において一連の看護を実践することを通して、周手術期の対象者の特徴と手術が与える影響、周手術期における患者中心の看護について学ぶ。特に周手術期の時期に不可欠である生命の危機的な状況から、回復過程における身体的な変化の特徴を踏まえたうえで、手術療法や個々人の違いによる看護の相違性と共通性を受け持ち患者の看護を通して学習する。その上で、多種多様な手術療法や集中的な治療を受ける対象者とその家族への看護に応用する力を身につける。これらを通して、急性期看護において必要な倫理的態度と自己の看護観を養う。	1) 周手術期にある対象者の身体的・心理社会的な状態について多面的にアセスメントし、その特徴について説明できる 2) 周手術期にある対象者とその家族に対して、対象者の周手術の時期に合わせた術前から術後までの看護問題の抽出・具体的な看護計画の立案・看護実践・評価までの一連の看護過程が展開できる 3) 周手術期にある対象者の周手術期の時期に合わせた意思決定支援や症状緩和についての支援を考え、その人らしい生活を支える看護者としての態度で関わるることができる 4) 看護専門職者としてチームの連携・協働を理解し、チームメンバーとしての自己の役割、責任を自覚した行動をとることができる 5) 医療場における倫理的課題を理解し、学習者として責任ある行動をとることができる 6) 周手術期における手術室や集中治療室、外来場において、対象者を中心とした医療職者の役割を理解することができる 7) 周手術期の対象者とその家族への看護実践を通して、今後の自己の課題を明らかにすることができ、急性期看護における患者・家族中心の看護のあり方について自己の看護観を述べる ことができる	3	○	3	後期	3	グループディスカッション、 グループワーク	◎	◎	◎
老年看護学概論	老年期の発達課題、加齢に伴う様々な変化と特徴を総合的に学び、高齢者の多様性を理解する。また超高齢社会の機相と社会保障制度の概要について学ぶとともに、老年看護の特性や役割について考察する。さらに、老年期特有の健康・生活課題について生活機能の観点から理解し、老年看護実践のための基盤を身につける。	1. 老年期の発達課題と加齢に伴う身体的、心理・精神的、社会的側面の特徴を説明できる。 2. 超高齢社会の現況と、高齢者と周囲の人々の健康と生活を支える社会の仕組みについて説明できる。 3. 老年期特有の健康と生活課題を生活機能の観点から説明できる。 4. 高齢者の生活機能を維持・向上するためのアセスメントの視点と、生活機能を整える看護について説明できる 5. 老年看護の特性と果たすべき役割について自分の意見を述べる ことができる。	2	○	2	前期	3	グループワーク、グループ ディスカッション	◎	◎	○
老年看護学方法論	老年期特有の健康・生活課題について、生活機能の観点からアセスメントし、健康と生活の質の維持・向上を目指した看護実践の方法について具体的に学ぶこととおして、老年看護の視点を広げ考察力を高める。	1. 加齢に伴う変化や高齢期に特徴的な症状・疾患・障害を理解できる 2. 高齢者の健康レベルに応じた看護支援について実践的に理解できる 3. 認知症高齢者の自己決定を支える看護や権利擁護について理解できる 4. 高齢期にみられやすい症状・障害に対する基本的看護技術を理解できる	2	○	3	前期	3	グループワーク、グループ ディスカッション	◎	◎	○
老年看護学実習	疾病や障害をもつ高齢者の生活機能の維持・向上を目指した個別性のある老年看護を実践するための基礎的な能力を養う。 1. 医療施設の実習では、疾病や障害を持つ高齢者に対して、退院後の生活を見据えた一連の看護を実践し評価する。 2. 介護老人保健施設での実習では、介護保険サービスを利用している高齢者を理解し、高齢者施設における看護の機能と役割について考察する。	1-1. 高齢者の健康課題や生活課題について、生活機能の視点から包括的に理解することができる 1-2. 高齢者の健康課題と生活課題に対してアセスメントを行い、高齢者の個別性に合わせた看護上の課題を明確化して、生活機能向上を目指した看護計画の立案、看護援助の実施・評価を行う 1-3. 高齢者の退院後の生活を見据えた退院支援と多職種連携実践について考え、そこで求められる看護の役割や機能について理解する。 2-1. 高齢者施設のサービスを利用している高齢者について理解を深める 2-2. 高齢者施設で提供されている看護ケアについて理解を深める	3	○	3	後期	3	体験学習、グループディス カッション	◎	◎	◎
小児看護学概論	子どもとその家族を看護の対象者として理解するために必要な知識と理論を学ぶ。具体的には、子どもの成長発達のプロセス、発達理論、形態的発育や機能的発達、これらを土台として子どもが生活動作・行動を獲得し、生活習慣を確立して行くプロセスを学ぶ。さらに、子どもが暮らす社会として、家族、家庭、地域社会、福祉や教育の現場、子どもと家族の暮らしに関わる制度を踏まえ、子どもの健康の保持増進に携わる看護の役割について理解を深める。	1. 社会的変遷の中での子どもの存在の意味を考えながら、小児看護の役割が理解できる。 2. 人としての子どもの権利に対する考え方を身につける。 3. 成長発達の原則および子どもの形態機能的、認知、心理社会的発達段階を理解し、成長発達や健康を判断できる。 4. 子どもにとっての親の役割と養育環境および支援の在り方を理解する。 5. 子どもの持つセルフケア能力を理解し、子どもが持つ力を引き出す援助方法の基本的考え方を見つける。 6. 子どもを取り巻く保健・医療・福祉・教育システムおよびケアの方向性を理解する。 7. 子どもが生活する場における小児看護の課題について意識を高める。	2	○	2	前期	3	グループで討議及び事例 グループワーク	◎	○	◎
小児看護学方法論	子どもは著しい成長発達過程にあると共に日常生活動作獲得や生活習慣を確立していく時期にある。小児看護学方法論では、子どもが病気や健康障がいをもつことによる影響を理解し、健康回復への具体的な支援の考え方や方法を学ぶ。加えて、健康障がいを持ち続けて成人期を迎える人に対する健康支援の場や、支援の過程において子どもの権利が脅かされやすいことを踏まえて子どもと家族への倫理的な配慮をもった看護を学ぶ。	1. 子どもの様々な健康レベルにおける成長発達過程や日常生活動作の獲得状況を捉えるアセスメントの方法を理解することができる。 2. 子どもと家族を看護の対象者として考えることができる。 3. 子どもの健康の回復・維持・増進を図りながら自立を目指す看護の方向性について、事例を通して考えることができる。 4. 子どもと家族に対する安全な看護実践の方法について、事例を通して理解することができる。 5. 子どもの看護実践や療養環境における倫理的配慮について述べる ことができる。	2	○	3	前期	3	グループワーク、技術演習 でのロールプレイとその振り返り	◎	◎	◎

授業科目名	授業科目のねらい	授業科目の到達目標	単位数 (○印は 必修)	配当 年次	開講 区分	レベル (低1～4高)	アクティブラーニング※の 実施について (具体的にお書きください)	知識・理解 (基礎力)	汎用的技能 (思考力・実践力)	態度・志向性 (思考力・実践力)	統合的な学習経験と創 造的思考力(実践力)
小児看護学実習	小児看護学実習の目的は、主な対象者である子どもと家族を理解し、必要な看護実践能力を養うことである。具体的にまず1つ目は子どもの理解を目的とし、成長発達過程にある日常生活行動の獲得や健康的な生活習慣の獲得とその支援について、小児看護学概論の学びをもとに地域社会で暮らす実際の対象者との交流を通して学ぶ。2つ目には、健康障がいをもつ子どもとその家族の理解を目的に、ケア実践と評価を通して、科学的根拠に基づいた子どもの健康回復・維持に向けた看護の実践を体験し、安全な看護を提供する基礎的能力を養う。	1.健康的な生活を送る小児の成長発達過程を促す支援の実践について体験を通して理解できる。 2.健康的な生活を送る小児の日常生活行動を獲得する支援の実践について体験を通して理解できる。 3.健康障がいを持つ子どもの疾病や入院による影響について、対象者の観察やコミュニケーション、医療チーム内の情報共有を体験して理解できる。 4.入院治療中にある子どもに必要なケア提供を通して、根拠のある安全に配慮した看護の実践ができる。 5.子どもへの看護の場における倫理的な視点を持ってケア実践を行うことができる。	2	○	3	後期	3	体験学習とリフレクション、グループディスカッション	◎	◎	◎
ウィメンズヘルス看護学概論	ウィメンズヘルス看護学は、リプロダクティブヘルス・ライツの観点から、セクシュアリティと健康に関して、看護者として有すべき基礎的知識・技術・態度を育成することを目的とする。本科目では、女性のライフサイクル各期の健康を生殖機能、発達、家族周期から捉え、女性を取り巻く時代背景、社会環境と関連付けて健康問題を理解することをねらいとする。 # 女性	1. ウィメンズヘルス看護学、母性看護学の位置づけについて理解する。 2. ウィメンズヘルス看護の対象や特徴について、基本概念に基づいて理解する。 3. ウィメンズヘルス看護について自分なりの考えを発展させる基盤作りができる。 4. セクシュアリティ、人権を看護専門職として捉える基本的態度を身につけることができる。	2	○	1	後期	3	グループディスカッション	◎	◎	○
ウィメンズヘルス看護学方法論	女性のライフサイクル「成熟期」のうち最もダイナミックに変化する妊娠期、分娩期、産褥期に焦点を当てる。これらの時期の身体、心理、社会面での変化と胎児の胎児期から新生児期の成長、発達、胎外生活への適応過程とそれぞれに必要な看護を学ぶ。また、正常からの逸脱と、逸脱の予防、早期発見、逸脱時の看護を学ぶ。また、ウェルネス思考での看護過程の展開を学ぶ。	1. 妊娠・分娩・産褥期に生じる母体の生理的、心理・社会的変化と援助のあり方を理解することができる。 2. 胎児の成長・発達、新生児の子宮外生活への適応過程と適切な養育環境への援助を理解することができる。 3. 対象の家族とくにパートナーの心理・社会的特性を理解することができる。 4. 生じやすい正常からの逸脱と、逸脱の予防・早期発見、逸脱時の援助を理解することができる。 5. ウェルネス思考での看護過程の展開を理解することができる。	2	○	2	前期	3	グループワーク・ロールプレイ	◎	◎	◎
ウィメンズヘルス看護学実習	主に周産期にある母子とその家族を看護の対象として理解する。そして、母子とその家族のウェルネスに向けた看護の実際を知り、実践することで、その特徴を学ぶ。さらにこれらに、地域での子育て支援の実際を理解し実践することで、妊娠前から子育て期にわたる切れ目のない支援のために求められる看護師の役割を認識し、必要な姿勢を養う。	1. マタニティサイクル期にある母子とその家族を理解することができる。 2. 母子とその家族のウェルネスに向けた支援を実践することができる。 3. 妊娠前から子育て期にわたる切れ目のない支援について理解し、看護師の役割を認識することができる。	2	○	3	後期	3	グループディスカッション、グループワーク	◎	◎	◎
精神看護学概論	心のはたらきを生物学・心理学・社会学的観点から理解し、心の健康を維持・増進したり、健康障害を予防するために必要とされる看護について学ぶ。また、精神保健福祉の歴史と現状、精神看護の基盤となる諸理論、当事者と家族の体験を理解し、共同創造に基づくリカバリー志向の精神看護実践の基礎的能力を養う。	1. 心のはたらきを生物学・心理学・社会学的観点から理解する 2. 心の健康を維持・増進したり、健康障害を予防するために必要とされる看護について学ぶ 3. 精神保健福祉の歴史と現状を知る 4. 精神看護の基盤となる諸理論を理解する 5. 精神障害をもつ当事者と家族の体験を理解する 6. 共同創造に基づくリカバリー志向の精神看護実践の基礎的能力を養う	2	○	1	後期	3	グループディスカッション	◎	◎	○
精神看護学方法論	さまざまな精神的不調が当事者とその家族の生活に及ぼす影響を理解し、精神的不調から回復していく過程を支える看護を学ぶ。そして、精神科リハビリテーションと社会資源、ピアサポート、多職種連携、共同創造の理念について学び、地域移行と地域生活を支える看護について理解を深める。また、演習を通して当事者の強みを活かしたリカバリー志向の看護援助の基礎的能力を養う。	1. さまざまな精神的不調が当事者とその家族の生活に及ぼす影響を理解する 2. 精神的不調から回復していく過程を支える看護を学ぶ 3. 精神科リハビリテーションと社会資源、ピアサポート、多職種連携、共同創造の理念について学び、地域移行と地域生活を支える看護について理解を深める 4. 演習を通して当事者の強みを活かしたリカバリー志向の看護援助の基礎的能力を養う	2	○	3	前期	3	ロールプレイ・グループワーク・発表	◎	◎	◎
精神看護学実習	精神障がいをもつ人の価値観や人権を尊重しながら関わり、援助の基盤となる対等な関係を築くことができる。そして、症状による生活のしづらさを理解した上で希望や強みに焦点を当てて関わる事ができる。また、精神障がいをもつ人の地域生活を支える施設、多様な専門職、ピアの役割を理解し、共同創造を基盤とした地域における精神看護について考えることができる。さらに、精神科病棟の治療環境と入院中のケアについて学び、看護師に求められる態度を考えることができる	1. 精神障がいをもつ人の価値観や人権を尊重しながら関わり、援助の基盤となる対等な関係を築くことができる 2. 症状による生活のしづらさを理解した上で対象者の希望や強みに焦点を当てて関わる事ができる 3. 精神障がいをもつ人の地域生活を支える施設、多様な専門職、ピアの役割を理解し、共同創造を基盤とした地域における精神看護について考えることができる 4. 精神科病棟の治療環境と入院中のケアについて学び、看護師に求められる態度を考えることができる	2	○	3	後期	3	対話を基盤とした個別指導・グループディスカッション・発表	◎	◎	◎
地域・在宅看護学概論	「地域 (community)」および「在宅看護」「在宅ケア」の概念を理解し、地域・在宅看護の対象、機能、役割について理解する。その上で、在宅看護、在宅ケアに関連する社会的背景とその変化に応じたこれからの看護ニーズの提供について、地域包括ケアシステムの観点から考えることができる。	①在宅看護の概念について理解する②在宅看護の対象について理解する③在宅看護における多職種連携・協働について理解する④事例に基づく在宅看護の展開について理解する。	2	○	1	後期	2	教員の発問から個人レベルでの思考および前後となりの学生とのミニ討議	◎	○	○
地域・在宅看護学方法論 I	地域の中で生活する療養者やその家族への看護を展開していくために必要とされる在宅看護の基本理念について理解する。また、在宅療養者とその家族を生活者としてとらえるために必要なアセスメントとその援助について理解する。その上で、多様な生活状況や価値観、疾患や障害をふまえて提供される地域・在宅看護活動について考える能力を養う。	①地域・在宅看護を展開するための基本理念について理解する。②在宅療養を支えるケアマネジメントおよびケアマネジャーの役割について理解する。③地域包括ケアシステムにおける看護の役割と多職種との連携・協働について理解する。④在宅療養を支えるための看護援助とその具体的な提供のあり方について理解する。	2	○	2	後期	3	グループディスカッション	◎	◎	○
地域・在宅看護学方法論 II	地域の中で生活する療養者とその家族の生活状況、および医療ニーズ、生活ニーズについて、事例を活用しながら学習、理解する。その上で、地域における在宅療養者とその家族の暮らしを健康面と生活面の両方から支える看護の展開について学習、理解し、その能力を養う。	在宅療養者の暮らしを支える具体的な看護援助について、看護過程を活用しながら理解する。	1	○	3	前期	4	グループディスカッション	◎	◎	◎
地域・在宅看護学実習 I	在宅生活において支援を要する人たちの療養生活の実際を知ること、療養者本人とその家族が望む生活を支える訪問看護の役割と、在宅ケアシステムにおける訪問看護の機能について理解する。その上で、地域で暮らし人たちの生活を支える看護活動の意義について考えることができる。	①疾病や障害により在宅生活に支援を要する人々の療養性か るの実際を理解する。②在宅療養者を支える家族の生活居 ついて理解する。③在宅療養者と家族を支える訪問看護に 意義および役割について理解する。④在宅療養者と家族に 関わる多職種の役割および地域包括ケアシステムの機能につ いて理解する。	1	○	2	前期	3	グループディスカッション・プレゼンテーション	◎	○	○
地域・在宅看護学実習 II	地域の中で生活する療養者やその家族への看護を展開していくために必要とされる在宅看護の基本理念について理解する。また、在宅療養者とその家族を生活者としてとらえるために必要なアセスメントとその援助について理解する。その上で、多様な生活状況や価値観、疾患や障害をふまえて提供される地域・在宅看護活動について考える能力を育成する。	①生活の場における在宅療養者とその家族の医療ニーズ、生活ニーズについて理解できる。②地域包括ケアシステムにおける訪問看護の機能および役割について理解できる。③地域包括ケアシステムにおける関係機関の連携および役割を理解できる。	1	○	3	後期	4	グループディスカッション・プレゼンテーション	◎	◎	◎

授業科目名	授業科目のねらい	授業科目の到達目標	単位数 (○印は 必修)	配当 年次	開講 区分	レベル (低1～4高)	アクティブラーニング※の 実施について (具体的にお書きください)	知識・理解 (基礎力)	汎用的技能 (思考力・実践力)	態度・志向性 (思考力・実践力)	統合的な学習経験と創 造的思考力(実践力)
看護研究Ⅰ	看護研究の成立、意義、目的、方法、研究倫理、教育・臨床・研究への応用について概観する。研究論文の構成要素と、論文として成立するための条件について、具体事例を基に演習を行いながら学習する。看護研究で取り上げるべき課題について研究するために、文献検討、研究方法の選択、調査設計・デザイン、データ分析、考察など、一連の研究過程について理解し、研究計画書を作成するための基礎的能力を養う。	1. 看護研究の意義について理解し、学士号をもつ看護師が研究に対してどのような役割を期待されているか述べることができる。 2. 自らの臨床実践や研究活動に必要とする論文を文献データベースを使って検索することができる。 3. 研究論文の種類・構成要素について述べることができる。 4. 質的・量的研究の基本的なデザインについて理解し、研究論文の専門用語を理解することができる。 5. リサーチクエスチョンを設定し、適切な文献を収集して文献検討を行うことができる。	2	○	3	前期	3	グループワーク、グループディスカッション	◎	◎	○
臨床判断	近年、療養の場が多様化し、看護師には、対象の状況に合わせて即時に判断し実践できる力が求められる。本科目では、これらに社会的要請に合うよう、学生らが対象者に対して「看護師らしく」「看護師のように」考え看護実践できることを目指し、その基礎を学修する。ある家族をテーマに、その家族員らが生活する中で、様々な遭遇する疾患や状況についてできるだけリアルを追求した紙上事例でとらえ、DAL学習をベースに、シミュレーション学習を取り入れながらTannerの臨床判断モデルの理解を使って、臨床判断能力を養う。	1. 臨床判断とはなにか・Tannerの臨床判断モデルを学習し、これまでの学習での思考との整理をすることができる。 2. 各専門領域の学習の特徴に合わせた紙上事例について適切に情報を取り、患者が示す状態の仮説を出し、患者を統合的にとらえることができる。 3. さらに、その場での患者の反応等を取り入れて、看護活動をするのかしないのか、何を行うのかということの判断をシミュレーション学習を通して経験する。 4. Tannerの臨床判断モデルをベースとした学習をとし、省察的考察をくりかえすことにより、臨床判断能力の基礎を養う。 5. DAL学習を通して、自律的な学習の姿勢および積極的なグループ活動への参加を意識することにより自己の力で学びを深めることができる。	2	○	3	前期	4	グループディスカッション・グループワーク・プレゼンテーション・シミュレーション教育	◎	◎	◎
看護倫理	医療における倫理的問題、そこに内在する患者、家族、医療者の価値の交错や倫理的葛藤について考える。それを踏まえて、看護実践の場面で直面する具体的な事例の検討を行い、倫理的な課題とその解決に向けたアプローチに取り組む。以上から、看護実践における看護職の倫理的感受性の重要性や意思決定の過程に必要な力について検討していく。  本科目はオンライン(同時双方向型)で実施する。	1.看護実践の中で必要となる倫理的視点について理解することができる。 2.看護倫理に関する基礎的知識を基に、自らの実習経験を振り返ることができる。 3.看護現場における倫理的問題へのアプローチの仕方を理解し、それをういてグループで事例検討に取り組み、問題解決の方向性を見出すことができる。 4.積極的に事例検討に取り組み、他者と考えを共有することをおして、自らの考えを深めることができる。 5.以上から、看護の実践場面で生じる専門職としての倫理的責任と倫理的行動、倫理的問題に対する認識能力と倫理的感受性について、自らの実習経験をとおして考察することができる。	1	○	4	後期	4	グループワーク(事例検討)・プレゼンテーション	◎	◎	◎
看護管理学	看護管理は管理者だけがするものではない。看護管理学は看護職であれば誰もが必要な知識であり、今後、看護専門職として活動するにあたり役に立つものであることが理解できることをねらう。	1.看護に関する制度・政策から個々の部署管理までを1つのシステムとして理解する。2.看護管理に関する諸理論と看護実践のつながりを理解する。3.専門職業人として組織における望ましい行動のあり方を探求する	1	○	3	後期	4	教員の発問から個人レベルでの思考、隣の学生とのミニ討議、全体発表を行い、3段階の能動的な学習を組み込む	◎	○	○
看護教育学	教育学的観点を踏まえて、看護学を学ぶ意味について再考する。看護学教育における基礎的知識を踏まえ、今日的課題と展望について理解する。	1.看護学教育の定義、および目的・目標について説明できる。 2.看護教育制度の歴史の変遷と特徴を理解し、現状について説明できる。 3.教育学における「教え-学ぶ」の意味を踏まえて、看護学を教える-学ぶ関係について再考する。 4.自ら受けてきた看護学教育をもとに、看護学教育の今日的課題と展望について考察する。	1	○	4	後期	3	グループ演習・発表	◎	◎	○
統合実習	対象者を多角的に理解し、必要な看護を提供すると共に、チーム医療の実践を通してチーム医療の中での看護専門職者としての自らの課題を見だし、統合的な看護実践能力を高めることを目的とする。具体的には、複数患者を受け持ち多角的なアセスメントをもとに看護実践を行うこと、多職種連携の実践を通して医療チームの一員としての看護専門職の役割を学ぶこと、看護管理の実践を学ぶこと、そして看護の場面における倫理的課題に気づき看護チームで共有できることを目指す。	1. 複数の患者を受け持ち、対象者の健康状態について心身および社会面から包括的にアセスメントし、必要なケアを考えることができる。 2. ケアの優先順位を考慮して、看護実践を行うことができる。 3. チーム医療の一員として、看護の専門性をふまえた必要な援助が提供できる。 4. 看護管理の実践を学び、マネジメントについて自己の考えを述べるることができる。 5. 保健医療福祉の連携において、専門職としての看護師の役割を対象者の看護を通して理解することができる。 6. 自らの援助内容を客観的に評価し、自らの課題を見出し、対象者のQOL向上に繋がる新たな援助策を主体的に構築できる。 7. 自らの看護の課題を吟味し、看護観を発展させることができる。 8. 倫理的課題に気づき、その課題について看護チーム間で共有できる。	3	○	4	前期	4	グループディスカッション・プレゼンテーション	◎	◎	◎
看護研究Ⅱ	これまでの講義や実習をとおして、興味関心あるいは疑問を抱いた看護現象に焦点を当ててリサーチクエスチョンを設定し、文献検索と検討を行って研究目的を明確化した上で、研究デザインと方法の選択をし、研究倫理の知見を含めた研究計画書の作成を行う。研究計画書にそって看護研究を実施し、研究成果はまとめて論文文化して研究成果発表会において発表する。これら一連の過程をとおして基礎的な看護研究を行う能力を身につける。	1.研究課題(リサーチクエスチョン)と研究目的を見出し、それにそって適切な研究デザインを設定することができる。 2.研究計画書の公正について理解し、研究計画書を立案できる。 3.研究倫理に則り、研究計画書に沿って看護研究を遂行することができる。 4.研究成果を卒業研究論文としてまとめ、研究成果発表会において他者に対して効果的にプレゼンテーションすることができる。	2	○	4	通年	4	グループディスカッション、プレゼンテーション	◎	◎	○
家族看護論	医療の地域・在宅移行に伴って、様々な健康レベルの家族のヘルスニーズに対応できる看護者として必要とされる基礎知識、技術・態度を育成することを目的とする。家族を看護の単位として構造・機能・発達から捉え、さらに文化的影響を考慮した家族アセスメントの基礎を理解することをねらいとする。	1. 家族の構造・機能・発達を理解することができる。 2. 家族という社会の中の諸問題と健康との関連について理解することができる。 3. 家族看護を支える理論について理解できる。 4. 家族看護過程の展開を理解することができる。	1	○	2	前期	2	グループディスカッション	◎	○	○
エンド・オブ・ライフケア論	終末期にある対象の理解を基盤に、エンド・オブ・ライフケアに関することばの概念について理解する。また、エンド・オブ・ライフケアが必要とされる社会的背景とともに、地域包括ケアシステムを基盤としたエンド・オブ・ライフケアのあり方について考える。さらに、アドバンス・ケア・プランニングの基本的考え方と、意思決定支援を支援する看護について学ぶ。	1. 死に関する概念を考えるとともに、その上で終末期にある対象者の理解と看護のあり方について考えることができる。 2. エンド・オブ・ライフケアの定義と、そのあり方について考えることができる。 3. アドバンス・ケア・プランニングとその看護支援について理解する。	1	○	2	後期	3	グループディスカッション	◎	○	◎
災害看護学	自然災害が発生しやすいわが国では、災害発生直後から復興に至るまでの過程だけでなく、災害予防においても看護職の果たす役割は大きい。災害時における要援護者の理解とともに、地域における防災ネットワークの重要性と専門職間との連携、協働について理解する。	1. 災害の定義と分類を理解する。 2. 災害サイクルを理解するとともに、災害各期における専門職間との連携と協働について理解する。 3. 災害時のトリアージを理解する。 4. 地域における防災対策と看護職の役割を理解する。	1	○	2	後期	4	グループディスカッション	◎	○	△



授業科目名	授業科目のねらい	授業科目の到達目標	単位数 (○印は 必修)	配当 年次	開講 区分	レベル (低1～4高)	アクティブラーニング※の 実施について (具体的にお書きください)	知識・理解 (基礎力)	汎用的技能 (思考力・実践力)	態度・志向性 (思考力・実践力)	統合的な学習経験と創造 的思考力(実践力)
看護総合演習	これまで学んできた看護学を踏まえ、看護とは何か、看護実践とは何かについて再考し、総括することを目指す。それにあたっては、学習者としての経験と専門的知識や技術を関連付けながら、看護実践を総合的に展開していくための実践的な知を探究する。	1. これまでの授業や実習を振り返り、不足している知識を確認する 2. 不足している知識を身に着け、演習を通して看護実践を総合的に展開する力を高める	1	○	4	後期	4	グループディスカッション	◎	◎	◎
公衆衛生看護学概論	公衆衛生看護の理念や概念、公衆衛生看護の対象と場の特性、公衆衛生看護活動の展開方法および倫理について学習する。さらに、公衆衛生看護の歴史を通して社会情勢と共に変遷する公衆衛生看護活動を概観し、公衆衛生看護活動の特徴を探るとともに保健師の役割について探求する。	1. 公衆衛生看護の定義、理念、公衆衛生看護の基盤となる概念を理解する。 2. 公衆衛生看護の対象及び場の特性、公衆衛生看護活動の方法を理解する。 3. 公衆衛生看護の倫理と法・制度について理解する。 4. 公衆衛生看護の歴史を学び、保健師の役割について考察する	2	○	2	前期	4	グループディスカッション・プレゼンテーション	◎	◎	◎
公衆衛生看護学活動論Ⅰ	公衆衛生看護学の概念や理論、保健師の専門性についての理解を基盤に、各ライフステージや場の特性に応じた公衆衛生看護活動および健康課題の特性に応じた公衆衛生看護活動を個人・集団・組織・地域を対象に展開する活動について学ぶ。	1. ライフステージの特性に応じた保健師活動に必要な知識と技術を理解できる。 2. 健康課題の特性に応じた保健師活動に必要な知識と技術を理解できる。 3. 個人・集団・地域を対象とする具体的な活動方法を理解できる。	1	○	2	後期	4	グループディスカッション・プレゼンテーション	◎	◎	◎
公衆衛生看護学活動論Ⅱ	健康課題の特性に応じた公衆衛生看護活動、個人・家族・集団・組織・地域を対象に展開する公衆衛生看護活動に必要な理論および技術を学習する。とくに、各ライフステージおよび健康課題の特性に応じた公衆衛生看護活動については、事例を用いた家庭訪問演習、健康相談演習、集団健診演習によって、個別支援技術、集団支援技術、地域支援技術を具体的に学び実践力の修得につなげる。	1. 健康相談場面の展開過程を通して、個別を対象とした保健指導技術を習得する。 2. 家庭訪問の展開過程を通して、個別支援技術を習得する。 3. 集団健診場面の展開過程を通して、集団の場における保健指導技術を習得する。	2		3	後期	4	グループディスカッション・シミュレーション・ロールプレイ	◎	◎	◎
公衆衛生看護学方法論Ⅰ	公衆衛生看護活動の基盤となる地域診断の展開過程を理解し、想定地域を対象に疫学的データや保健統計を用いて、科学的根拠に基づく実践的アセスメント能力を修得する。さらに、地域診断によって明らかになった地域の健康課題の解決に向けた健康教育の企画・実施・評価の一連の展開過程を学ぶ。	1. 地域の捉え方、地域診断の概念・方法が理解できる。 2. 地域診断関連モデルを用いた地域診断の過程を実践できる。 3. 地域の健康課題課題解決に向けた健康教育を企画し、実施・評価できる。	2		3	前期	4	グループワーク、プレゼンテーション	◎	◎	◎
公衆衛生看護学方法論Ⅱ	実習地域を対象に、地域情報の収集、アセスメント、健康課題の抽出、活動計画の立案に取り組み地域診断の実践力を修得する。さらに実習地における重層的な地域診断の動機づけを図る。	実習地域に関する情報収集、アセスメント、健康課題の抽出を行い、実習目標を明確にする。	2		4	前期	4	フィールドワーク・グループワーク・プレゼンテーション	◎	◎	◎
公衆衛生看護学方法論Ⅲ	公衆衛生看護管理の目的、機能、保健師の役割について学習する。とくに、災害に関する危機管理や虐待等個人家族が有する健康危機に対応するための知識・技術を学び、事例演習を通して健康危機管理能力を修得する。さらに、公衆衛生看護の原点から保健師の活動を展望することができる。	1. 公衆衛生看護管理について理解し、地域の保健師の役割が理解できる 2. 健康危機管理について理解し、保健師の役割が理解できる 3. 公衆衛生看護の原点と保健師の活動を展望することができる 4. 公衆衛生看護の学びを統合し保健師の専門性について説明できる	2		4	後期	4	グループディスカッション・プレゼンテーション	◎	◎	◎
学校保健学概論	現代的な健康課題とともに地域社会の場における学校とその保健活動、それに従事する専門職の役割を含め、学校保健の領域について概説する。学校を構成する個人/家族、学校組織の健康の保持増進・予防活動における法制度とその動向、関係専門職と専門機関の連携について学ぶ。	1. 地域社会の健康課題に取り組む学校保健活動の理解と、学校保健の構造と領域の概要を説明することができる。 2. 学校保健安全法等の法的根拠を理解し、説明することができる。 3. 学校内外の専門職および学校保健に関わる地域専門機関との連携について説明することができる。	2		2	前期	2	グループディスカッション	◎	○	○
保健医療福祉行政論Ⅰ	社会保険・医療保険・介護保険の保険制度や年金制度、生活保護法と施策、障害者(児)施策、母子・成人・高齢者施策、財源等の知識を基盤に、地域住民のQOLを高めるための地域ケアシステムの構築や地域ニーズに即した社会資源の開発等保健師が行う政策形成過程について事例を用いた演習等により施策化能力を修得する。	1. 保健医療福祉行政の基本、保健医療福祉行政・財政の理念と仕組み、社会保障制度と政策について説明できる。 2. 地域保健行政と保健師活動について説明できる。 3. 保健医療福祉行政の計画策定・実施・評価のサイクルについて説明できる。	1		3	前期	4	グループディスカッション・プレゼンテーション	◎	◎	◎
保健医療福祉行政論Ⅱ	地域ケアシステムの構築や地域ニーズに即した社会資源の開発等を推進する保健師の事業化、施策化の過程を公衆衛生看護学実習Ⅰ・Ⅱで経験した事例を用いて演習し、保健師に必要な施策化能力の強化を目指す。	公衆衛生看護学実習Ⅰ・Ⅱで経験した事例を用いて、保健師に必要な施策・事業の企画・立案できる	1		4	後期	4	グループディスカッション・プレゼンテーション	◎	◎	◎
公衆衛生看護学実習Ⅰ	保健所および保健センター等行政機関における実習を通して、地域特性を踏まえ、地域で生活する個人・家族・集団・地域を対象に保健医療福祉の一員として、住民と協働して行う公衆衛生看護活動の展開に必要な保健師の基本的実践能力を養う。具体的には、地域特性を踏まえ、地域の実情に応じた公衆衛生看護活動の展開が理解できる(地域診断能力)、地域で生活する個人・家族を対象とした公衆衛生看護活動を理解し実践できる(個別支援能力)、集団を対象とした公衆衛生看護活動を理解し実践できる(集団支援能力)、地域の健康問題解決に必要な支援、社会資源の活用・施策化のプロセスについて説明できる(地域支援能力)、保健所および保健センターの機能および保健医療福祉のヘルスケアシステムを理解し保健師が果たす機能・役割について理解できる(ヘルスケアシステムと保健師の役割機能)の5つの実習目標と各目標の細目標についての実践力を養う。	1. 地域特性を踏まえ、地域の実情に応じた公衆衛生看護活動の展開が理解できる。 2. 地域で生活する個人・家族・集団・組織を対象とした公衆衛生看護活動を実践できる。 3. 地域の健康問題解決に必要な社会資源の活用・創出方法について理解できる。 4. 保健所および市町保健センターの機能を知り、保健医療福祉におけるヘルスケアシステムの中で保健師が果たす役割・機能を理解できる。	3		4	前期	4	グループディスカッション・プレゼンテーション	◎	◎	◎
公衆衛生看護学実習Ⅱ	継続訪問実習、学校保健実習、産業保健実習の3つ実習で構成する。継続訪問実習は、地域包括支援センターおよび本学の子育て支援施設の利用者を対象に地域で生活する高齢者や乳幼児とその家族への継続した保健指導を通して対象者との信頼関係の構築を基盤に対象者のQOL向上を目指すための実践力を養う。さらに個別の健康課題から集団、地域の健康課題を推測し必要な支援を検討する保健師の役割について考察する。学校保健実習では、学校における保健活動の実践と養護教諭の役割を学び、地域保健との連携、協働について考察する。産業保健実習では、事業場における産業保健師の活動の実践を学び、産業保健師の役割および地域保健との連携、協働について考察する。	1. 対象者・家族への継続訪問指導をととして、継続支援の意義及び地域生活を支援する保健師の役割を説明できる。 2. 学校における健康課題を理解し、実践をとおして養護教諭の役割を説明できる。 3. 産業保健の場における健康課題を理解し、体験をとおして産業保健師の役割を説明できる。	3		4	後期	4	グループディスカッション・プレゼンテーション	◎	◎	◎
医療遺伝学	看護職に必要な遺伝医学の知識を身につける。遺伝子診断や遺伝子治療、出生前診断などについて学び、多様性を踏まえた倫理的問題について幅広く深く考える力を養う。遺伝カウンセリング場面で扱う当事者の心理・社会的問題への理解を深め、遺伝カウンセリングの基本的な知識、進め方、留意点などを学習する。	以下の遺伝医学、および遺伝カウンセリングに関する事項の理解を深め、基礎的な知識を習得し、それを基に考え意見を述べる。1) 遺伝医学の基礎知識: 遺伝とは、遺伝子とは、遺伝形式、遺伝医学における技術、遺伝医療における生命倫理。2) 遺伝カウンセリングの基礎知識と実際: 遺伝カウンセリングの役割と基本理念、面接技法(相談過程と留意点など)、倫理的配慮	1		2	後期	2	授業毎のレポート作成・面接ロールプレイ	◎	△	△
生殖科学	助産実践に必要な産科学的基礎知識として、妊娠期、分娩期、産褥期における異常や合併症の病態と診断・治療・管理および産科手術について学ぶ。	①妊娠期、分娩期、産褥期における異常や合併症の病態について説明できる。②妊娠期、分娩期、産褥期における異常や合併症について、その診断法、治療および管理について説明できる。③産科麻酔・産科手術について説明できる。	1		3	前期	3	主体的な事前学習・復習	◎	○	△

授業科目名	授業科目のねらい	授業科目の到達目標	単位数 (○印は必修)	配当年次	開講区分	レベル (低1～4高)	アクティブラーニング※の実施について (具体的に書きください)	知識・理解 (基礎力)	汎用的技能 (思考力・実践力)	態度・志向性 (思考力・実践力)	統合的な学習経験と創造的思考力(実践力)
新生児学	新生児の生理について基本的知識を習得し正常新生児を理解する。新生児の主要な疾患については、医学的見地から病態の理解を深め、正常を逸脱した新生児の診断と治療について学ぶ。また、NICUにおける生理学的適応を助けるケア、神経行動学的発達を助けるケア、ファミリーセンタードケアについても理解する。新生児蘇生法の演習では、出生直後の新生児の状態を評価し、蘇生の必要性を判断し、速やかに適切な対応が行えるする力を養う。	①新生児の生理について説明できる。②新生児の主要な疾患の病態を説明できる。③新生児の病態の診断・治療について説明できる。④デイベロップメンタルケア、ファミリーセンタードケアの意義や必要性について説明できる。⑤新生児蘇生の理論が説明でき、演習で実施できる。	1	3	前期	3	主体的な事前学習・復習	◎	○	○	△
助産学原論	助産及び助産師を考える上で必要となる主要な概念や理論について理解する。具体的には、「助産の概念」、「助産の歴史」、「助産師と倫理」、「世界における周産期ケアの潮流」、「周産期における母性心理の発達過程」、「助産学研究の動向」、「助産師教育の国際比較」、「助産と政策」、「助産師の能力開発と人材育成」である。	①助産の概念、助産ケアの理念、助産師の責任と役割について説明できる。②助産の歴史的経緯の概要を説明できる。③助産分野における倫理的課題に説明できる。④周産期の母性心理の特徴とその発達過程について説明でき、助産師の役割について自己の考えを述べるができる。⑤日本の助産師教育の変遷、現状と国際比較について説明できる。⑥助産と政策形成の関係をふまえ、自己の考えを述べるができる。⑦助産師としてのキャリア発達を考えることができる。	2	3	前期	3	グループディスカッション・プレゼンテーション	◎	○	◎	○
地域母子保健学	助産師の地域における役割、及び地域社会で生活する母子支援の視点と方法について理解する。具体的には、「母子保健の歴史と母子保健制度」、「母子保健の課題の変遷」、「母子保健統計」、「地域における子育て支援」、「地域母子保健と多様性」、「国際母子保健と外国人母子支援」、「プレコンセプションケア」である。	①地域における助産師の役割と意義について説明できる。②生活者としての母子を支援する視点と支援法について説明できる。③日本の母子保健の現状と課題について説明できる。④母子統計を読み取り、現状の説明ができる。⑤国際的な母子保健の課題および、外国人母子の支援の現状について説明できる。⑥プレコンセプションケアの概念と実践について説明できる。	1	3	後期	3	グループディスカッション・プレゼンテーション	◎	○	◎	○
助産診断技術学Ⅰ	妊娠に必要な助産診断と助産ケアについて学ぶ。主たる内容は、妊娠の経過とそれに伴う助産診断と助産ケア、胎児の健康度診断、ハイリスク妊婦へのケア、妊娠各期における保健指導の実践、出産準備教育の理論について学ぶ。また、マタニティサイクルにおける助産診断の基本的考え方はこの科目で教授する。	①妊娠の成立と妊娠経過について説明できる。②胎児の発育・成長について説明できる。③妊娠期の正常な経過を維持するための助産ケアについて説明できる。④妊娠期に起こりやすい異常について説明できる。⑤ハイリスク妊婦のケアについて説明できる。⑥マタニティサイクルにおける助産診断の考え方が説明できる。⑦妊娠期に必要な助産診断の考え方が説明できる。⑧出産準備教育の意義を理解し、対象の特性をふまえながら教育内容・方法・教材を考えることができる。	2	4	前期	4	グループディスカッション・グループワーク	◎	◎	◎	◎
助産診断技術学Ⅱ	分娩期に必要な助産診断と助産ケアについて学ぶ。具体的には、正常出産の経過とそれに伴う助産診断、助産ケアを中心に誘発分娩の管理とケア、異常分娩時の介助について学ぶ。助産診断では、事例演習をととして診断の考え方を学ぶ	①陣痛発来と分娩機転、分娩による生理的变化を説明できる。②分娩の3要素や関連情報から分娩経過、分娩時期を総合的に判断する方法を説明できる。③分娩監視装置による胎児管理が説明でき、モニタリング結果の判断、胎児の健康状態のアセスメントと対処方法が説明できる。④産婦のリスクアセスメントの方法が説明でき、分娩各期に起こる異常の早期発見・診断方法、対処法について説明できる。⑤分娩期に必要な助産診断の考え方と、全人的な助産ケアについて説明できる。⑥誘発分娩における助産師の管理と、異常分娩時の対応について説明できる。	2	4	前期	4	グループディスカッション・グループワーク	◎	◎	◎	◎
助産診断技術学Ⅲ	産褥期・新生児期の変化と適応、異常について基本的知識を習得する。習得した知識を用いてアセスメントを行い、正常性を維持する助産ケアについて理解を深め、助産過程を展開する診断技術を学ぶ。また、母乳育児支援や家族計画指導を含む産褥期・新生児期の助産実践に必要な援助技術を獲得できるよう演習を行う。産褥期の保健指導については、指導案や教材作成を行い、学内演習から臨地実習での実践につなげる。	①産褥期の生理的变化(退行性変化、進行性変化、全身性の変化)、心理・社会的変化について説明できる。②産褥期の正常な経過を維持するための助産ケアについて説明できる。③新生児の子宮外適応の過程と、正常新生児の助産ケアについて説明できる。④産褥期・新生児期に起こりやすい異常について説明できる。⑤産褥期・新生児期に必要な助産診断の考え方が説明できる。⑥各受胎調節法の特徴や使用可能時期等を含め、家族計画に関する選択・実施の支援について説明する事ができる。	2	4	前期	4	グループディスカッション・グループワーク	◎	◎	◎	◎
助産診断技術学演習	マタニティサイクルの助産実践に必要な助産診断力および技術力を習得する。具体的には、分娩介助演習、妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期の技術演習、紙上事例の展開等を行う。	①妊娠期・産褥期・新生児期の、紙上事例による助産過程の展開ができる。②妊娠期・産褥期・新生児期に必要な保健指導について指導案と媒体を作成し、ロールプレイで保健指導を実施できる。③妊婦健診に必要な助産技術が演習で実施できる。④モデル人形を使って、出生直後の新生児の観察、計測、助産ケアが実施できる。⑤正常分娩における基本的な介助操作をファントムを用いて実施できる。⑥基本的な胎盤検索が演習で実施できる。⑦助産師が行う集団健康教育を企画することができる。	2	4	前期	4	・ロールプレイ・シミュレーション演習	○	◎	◎	◎
統合助産	既習の知識と実習の学びを統合し、女性とその家族を支える専門職として、自分が目指す助産師像を明らかにしながら、将来自律した助産師活動ができるよう発展的に学ぶ。具体的には「これからの周産期医療と助産師の働き方」、「助産師教育と助産師の必須能力」、「マタニティケア能力の開発(会陰縫合)」、「助産理論の統合と実践(状況設定事例における助産実践の展開)」である。	①助産師に求められている役割を国内外から俯瞰的に捉え、自律した助産師活動ができるよう将来を展望できる。②実践助産ケアへの応用を理解する。③これまでの学びを統合した助産実践を考えることができる。④自己の助産観について述べることができ、助産師としてのキャリアデザインを描くことができる。	1	4	後期	4	分娩期の臨床推論のシミュレーション学習・自己のキャリア開発のアクションプラン策定	○	◎	◎	◎
助産管理	助産業務を管理するために必要な基礎知識ならびに能力について理解する。具体的には、「管理の概念」、「助産師の業務範囲と関連法規」、「助産師と医療安全」、「病院における助産管理の実践」、「助産所における助産管理の実践」、「助産と災害」、「助産師の能力開発と人材育成」である。#女性 #女性教育	①助産管理の概念について説明できる。②助産師活動を規定する関連法規について説明できる。③周産期の医療事故の具体的事例について分析し、予防策について説明できる。④病院における助産管理の要点が説明できる。⑤助産所における助産管理の要点及び、助産所で扱える症例について説明できる。⑥助産領域における災害対策について説明できる。⑦助産ケアの質を保証するための助産師の能力、責務について説明できる。	1	4	後期	4	グループワーク・プレゼンテーション	◎	◎	◎	◎
助産学実習Ⅰ	病院や助産所で臨地実習を行い、妊婦・産婦・褥婦および新生児への助産過程の展開を通して、対象に必要な助産ケアを行える基礎的能力を養う。また、周産期の母子とその家族を支援する姿勢や態度、ケアを提供するチームの一員としての責務や役割について学ぶ。	①指導のもと、分娩期のアセスメントをし、必要な助産計画を立案し、助産ケアを実施することができる。②指導のもと、基本的な分娩介助操作を実施できる。③分娩期にある対象者と自然なコミュニケーションがとれる。④母乳育児支援における基礎的な助産ケアが実施できる。⑤看護チームの一員として責任ある行動がとれる。⑥自己のリフレクションを通して、実習における課題を上げ取り組むことができる。	2	4	通年	4	実習の体験をリフレクションすることによる気づきと、更なる学習への動機付け	○	◎	◎	◎
助産学実習Ⅱ	助産学実習Ⅰでの学びをふまえ、さらなるマタニティケア能力の育成を目指す。具体的には、妊婦・産婦・褥婦および新生児への個別性、優先順位を考慮した助産過程を展開する。また、主体的に実習を遂行していく姿勢を養う。そして、助産師としてのアイデンティティを学生自身の中で構築していく。	①正常産もしくはローリスクの経膈分娩の介助を助産学実習Ⅰと合わせ9例以上実施できる。②分娩期のアセスメントをし、分娩経過に応じた助産計画を立案し、適切な方法で助産ケアが実施できる。③正常経過の妊婦を産褥1か月まで継続して受持ち、個別性のある助産過程を展開することができる。④褥婦に対し、必要な家族計画指導を実施できる。⑤病院・助産所における助産業務や助産管理の実践を学び、医療や母子保健サービスの中で、助産師の責務や役割について説明することができる。⑥妊産褥婦やその家族との間に医療者として適切な関係を築くことができる。⑦自己の中に助産観を構築でき、助産観に基づいたケアの実施ができる。	6	4	通年	4	実習の体験をリフレクションすることによる気づきと、更なる学習への動機付け	○	◎	◎	◎

授業科目名	授業科目のねらい	授業科目の到達目標	単位数 (○印は 必修)	配当 年次	開講 区分	レベル (低1～4高)	アクティブラーニング※の 実施について (具体的にお書きください)	知識・理解 (基礎力)	汎用的技能 (思考力・実践力)	態度・志向性 (思考力・実践力)	統合的な学習経験と創 造的思考力(実践力)
学校保健(学校安全含む)	学校における児童、生徒、学生及び幼児並びに職員を対象として、生涯を通じて健康で生きる力を育むための保健教育・保健管理および学校保健組織活動について学ぶ。講義計画：学校保健の領域と構造、学校保健安全計画の作成、児童生徒の定期健康診断、健康問題の実態把握、保健室の役割、学校感染症予防対策、学校救急処置、学校精神保健、学校環境衛生、学校安全、学校安全教育、学校危機管理、保健の学力とその指導方法、学校保健委員会と組織活動、学校保健安全活動の評価、学校保健安全法等法規。	1 学校保健の意義と目的を理解し、学校保健における養護教諭の中核的役割を説明することができる。 2 学校保健安全法等の法的根拠に基づいた学校保健安全活動を例示することができる。 3 学校保健における保健教育・保健管理を理解し、養護教諭の役割を説明することができる。 4 学校安全における安全教育・安全管理を理解し説明することができる。 5 学校危機管理と児童生徒の心のケアについて理解することができる。	2	2	後期	2～3	グループディスカッション・模擬授業	◎	◎	○	◎
養護学概説	養護教諭の職務の基盤となる養護学に関する知識をもとにしてその展開について学ぶ。養護学の概論、職制および歴史の変遷、社会的ニーズと養護教諭の倫理綱領、養護実践活動(児童生徒の定期健康診断等の計画実施評価方法・健康実態の把握と管理指導方法、保健指導、保健学習、医療的ケア、心の健康問題、学校感染症予防と対策、学校環境衛生、学校保健組織活動、保健室経営、研究活動と職務の評価の内容を含む)。	1 養護の本質と概念をふまえた養護教諭の職務と役割を理解するとともに根拠に基づき説明することができる。 2 発育発達過程にある児童生徒等の一般的傾向とそれぞれの個人差を説明できる。 3 学校教育活動と健康問題を説明できる。 4 保健室に入室する児童生徒等の疾病予防・健康増進への対応を説明できる。 5 学校環境のアセスメントとその解決方略を説明できる。 6 めざす養護教諭像を描き、自己の課題解決と実践ができる。	2	3	前期	3	グループディスカッション・プレゼンテーション・演習等	◎	○	◎	◎
健康相談活動論	健康相談活動論は、養護教諭の相談活動の理論と方法に関する内容を学修する専門科目である。講義概要：養護学と健康相談活動の基本的理解、健康相談を支える諸理論および技法、対象理解と現代的健康課題、近接領域におけるヘルスアセスメント、保健室の機能と養護教諭の特質、健康相談と保健指導、学校における健康相談の進め方、健康相談活動事例検討と演習、健康相談活動の記録、学校内外の連携、健康相談活動評価、健康相談活動の力量形成と研究。	1)養護教諭の行う健康相談活動の概念と特質を理解することができる。 2)学校における児童生徒の健康課題について理解することができる。 3)保健室に入室する児童生徒のヘルスアセスメント、支援のための対応策を考えることができる。	2	3	前期	3	ロールプレイ・グループワーク等	◎	◎	◎	◎